

空軍ニュース：中国が偵察衛星を輸出

漢和防務評論：20161225 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

最近の中国の対米姿勢は、トランプ次期大統領の発言に対抗するためか、極めて先鋭的になっているように思います。米国が中国を敵視するなら、全世界反米同盟を構築するぞ、と脅しているように見えます。

今日紹介する漢和防務評論記事は、中国が偵察衛星を対外輸出するニュースですが、内容から見て、輸出先は反米国家に違いありません。今までは、対米関係を考慮し米国の意向をある程度汲んできた中国が、逆に反米国の支援に回る可能性が出てきました。

この記事では、輸出先の国名を明らかにしていませんが、米国が一番嫌がる中東の某国ではないかと思えます。

年明けから世界の動きは目まぐるしく変わる可能性があります。

KDR 編集部珠海特電：

同地区の消息筋によると：中国航天第5研究院（5院）は、ある友好国のため開発した高精度の偵察衛星を今年（2016）引き渡すことになった、と述べた。同国が購入したのは1基である。

消息筋によると、5院が開発したデジタル式偵察衛星には2つの系列がある。それは尖兵系列と高分系列である。尖兵系列は完全なる軍用で、高分系列は主として軍用、一部は民用を兼る。尖兵系列の分解能は0.3乃至0.5Mに達し、衛星寿命は8乃至10年である。現在は輸出向けの分解能1Mの民用衛星を開発中である。

消息筋は、同国に輸出される偵察衛星の分解能について話すことを拒否した。しかしKDRの分析によると、同国は、明らかに分解能1M以下の偵察衛星を求めているようだ。なぜなら同国は自前の国産光学、SAR衛星システムを開発中であり、ロシアとの協力も行っている。

同国の巡航ミサイルはTERCOM/DSMAC誘導技術を採用している。同国が生産する高精度の画像衛星が同国の巡航ミサイルの命中精度をさらに高めるのを中国が支援することになる。

そして、もし5院の生産する光学偵察衛星の分解能が0.3M以下に達したならば、中国の衛星技術が、逐次米国、フランスを上回るようになることを意味する。

消息筋は：デジタル式カメラは中国製である、と述べた。

以上